

返子ゆかり		芥川賞・直木賞作品と作家たち						◆返子の文学を学び広める会 2024年5月現在	
No.	作家名	受賞作品	芥川賞 受賞年(回・期)	直木賞 受賞年(回・期)	「掲載誌」 または出版社	生誕～没年	出身地	備 考	
						返子市在住期間	市内住所		
1	川口 松太郎 かわぐち まつたろう	鶴八鶴次郎・風流深川唄ほか		1935(第1回上期)	「オール讀物」 ほか	1899～1985	東京・浅草	小説家・劇作家・演出家。新派劇の代表作『鶴八鶴次郎』のほか、『新吾十番勝負』『愛染かつら』など。	
	調査中					市内新宿(別邸)			
2	橋 外男 たちはな そとお	ナリン殿下への回想		1938(第7回上期)	春秋社	1894～1959	石川・金沢市	インド地方国の殿下が宗主国に抵抗しようと来日、留学を希望するが…。怪奇小説も『返子物語』ほか多数。	
	調査中					調査中			
3	中里 恒子 ※ なかざと つねこ	乗合馬車・日光室	1938(第8回下期)		「文學界」 「新潮」	1909～1987	神奈川・藤沢市	芥川賞女性初受賞作。人々の思いが交錯する国際結婚。乗合馬車は昭和初期、返子葉山間を運行。	
	1932～1987					市内桜山→返子			
4	多田 裕計 ※ ただ ゆうけい	長江デルタ	1941(第13回上期)		「大陸往来」	1912～1980	福井・福井市	受賞作は日中戦時の上海周辺、多国籍の思惑が複雑に絡まる人間模様を描く。俳誌「れもん」を主宰。	
	1949～1980					市内新宿			
5	堀田 善衛 ※ ほった よしえ	広場の孤独・漢奸 その他	1951(第26回下期)		「中央公論」 ほか	1918～1998	富山・高岡市	朝鮮戦争勃発で次々入る電文を翻訳する主人公。歴史の大転換期にたえずむ知識人の苦悩と決断とは？	
	1948～1998					市内新宿			
6	石原 慎太郎 ※※ いしはら しんたろう	太陽の季節	1955(第34回下期)		「文學界」	1932～2022	兵庫・神戸市	戦後世代の肉体と性を真正面から描いた衝撃作。当時芥川賞最年少受賞。国会議員、都知事など歴任。	
	1943～調査中					市内桜山→新宿			
7	佐藤 得二 ※ さとう とくじ	女のいくさ	1963(第49回上期)		二見書房	1899～1970	岩手・金ヶ崎町	明治から昭和初期にかけて、ある髪結い女性の一生をていねいに描く。当時直木賞最高齢受賞(64歳)。	
	1965～1966					市内桜山			
8	佐藤 愛子 さとう あいこ	戦いすんで日が暮れて	1969(第61回上期)		講談社	1923～	大阪・大阪市	元夫の借金返済のために東奔西走するという、実話をもとにした奮戦記。菊池寛賞など。近作も続々。	
	1992～					市内桜山(別邸)			
9	林 京子 ※ はやし きょうこ	祭りの場	1975(第73回上期)		「群像」	1930～2017	長崎・長崎市	高等女学校3年のとき、動員された長崎の兵器工場で被爆。その後30年という時の流れの中に位置づけた。	
	1954～2017					市内沼間→桜山			
10	高橋 治 ※ たかはし おさむ	秘伝	1983(第90回下期)		「小説現代」	1929～2015	千葉・千葉市	怪魚イシナギに挑む男たちを描いた作品。他に『風の盆恋歌』など。松竹時代、小津映画の製作に携わる。	
	1973～1977					市内新宿(別邸)			
11	辺見 庸 ※ へんみ よう	自動起床装置	1991(第105回上期)		「文學界」	1944～	宮城・石巻市	通信社の仮眠室。自動起床装置なるものが導入されて…。眠りという新領域から現代文明を衝いた。	
	1974～2000					市内桜山			
12	伊集院 静 ※ いじゅういん しずか	受け月	1992(第107回上期)		文藝春秋	1950～2023	山口・防府市	野球を通じて人生の機微を描く短編集。随筆集には若き日の著者が過ごした『なぎさホテル』もある。	
	1978～1984					市内新宿			
13	なかにし 礼 ※ なかにし れい	長崎ぶらぶら節	1999(第122回下期)		文藝春秋	1938～2020	中国・牡丹江市	長崎の古い歌を求めて苦難の道を歩み始める二人の男女の出会いと無償の愛。著名作詞家の受賞作品。	
	1996～調査中					市内小坪			
14	朝吹 真理子 あさぶき まりこ	きことわ	2010(第144回下期)		「新潮」	1984～	東京	舞台は返子と葉山。ある別荘の解体で25年ぶりに再会する女性二人。過去、夢、現実、記憶はもつれ…。	
	—					—			

作家名の後の※印は、返子市立図書館サイトの「返子ゆかりの作家と文化人」。※※は同図書館に「石原慎太郎文庫」がある。◇資料＝公益財団法人日本文学振興会、返子市立図書館